日本語学習と文化理解を目的とした独習型ウェブサイトの開発
—WEB 版「エリンが挑戦！にほんごできます。」における理念と実践—

磯村　一弘
国際交流基金

要旨

WEB 版「エリンが挑戦！にほんごできます。」は、日本語学習および日本文化理解を目的として制作されたウェブサイトである。サイトの元になった映像教材においては、できるだけ生の日本語に触れ、生の日本文化を見る機会を提供する、という理念に基づいて制作されている。ウェブサイトの開発に当たっては、これに加えて、広く世界の多様な日本語学習者に対してインターネット上で公開することを前提とした、新たな工夫がなされている。本稿においては、サイトのコンテンツの概要を説明しつつ、サイト開発における理念が具体的にどのような形で実現しているかを紹介し、日本語学習用ウェブサイト開発における知見を共有する。

【キーワード】　インターネット、ICT、e-learning、Flash、異文化理解、自律学習

1　はじめに

グローバル時代における日本語教育においては、ウェブサイトを利用した学習が、極めて重要な位置を占めるようになってきている。現在、インターネット上には日本語学習に関連する多様なサイトが存在しており、それぞれ目的や利用対象者によって工夫を施している。

その中の一つである、WEB 版「エリンが挑戦！にほんごできます。」（http://erin.ne.jp/）は、日本語学習および日本文化理解のためのウェブサイトである。このサイトは既存の映像教材をウェブ化したものであり、映像教材は、2006 年から NHK 教育テレビの語学番組として放送、2007 年にはテキスト冊子＋DVD という形で、全３巻の教材として出版された（簗島、久保田、磯村 2007）。「WEB 版」は、この映像教材のコンテンツを元に作成し、2010 年 3 月に公開された。

映像教材制作時における理念としては、「日本語学習」と「日本文化理解」を目標の二本柱とし、具体的には次のような点を考慮した。

・実際の場面における、できるだけ「オーセンティックな日本語」を与える。
・「Can-do」シラバスにより、日本語が実際に使えるようになることを目指す。
・「日本文化」について考える機会を与える。
・できるだけ多くの短い映像を見せる。

DVD 教材においては、主に教室という学習場面において、教師がこの教材のコンテンツを授業のための「映像素材」として使用することを想定した制作がなされていた（三原 2008）。これに対して、ウェブサイトとして広く一般に公開することを前提とした「WEB 版」においては、世界の学習者がいつでも、どこからでも、誰でも、個人としてサイトにアクセスすることによって、上記の理念が実現できるように配慮しながら制作を行った。具体的には、以下のような点である。

1.日本語学習歴、学習形態、文化的背景などの点で、幅広い対象者を想定
2.学習者個人による独習を前提とし、自律的に学習が進められるような工夫
3.WEB というメディアの特徴を生かした工夫

4.サイトの継続的アクセスに繋がるような、興味を引く新規コンテンツの作成

本稿では、大会発表時の流れに沿って、「WEB 版エリン」の内容をコーナーごとに紹介しながら、DVD 版映像教材から WEB 版を制作するにあたって、上記 1～4 の点が具体的にどのように実現されているかを示していくことにする。

2　日本語学習が主な目的のコンテンツ

2.1　「スキット」

2.2.1　「動画の再生」

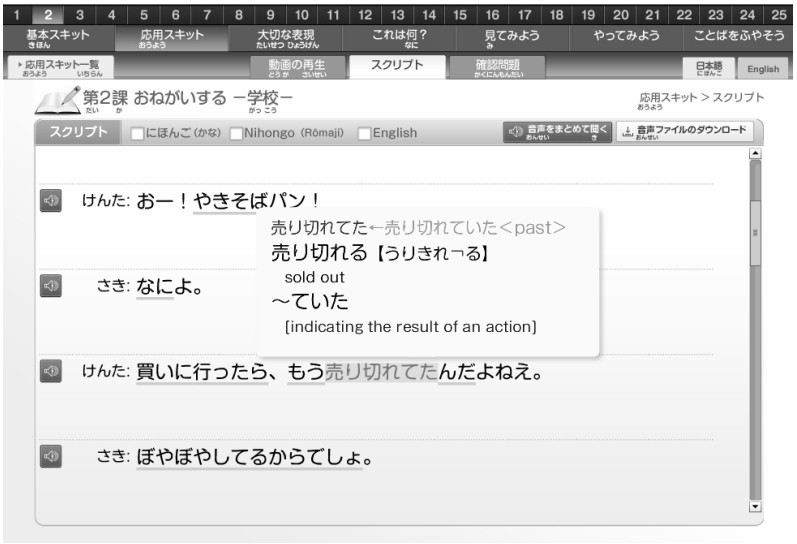
本サイトの中心となるコンテンツは、スキットの動画である。WEB 版では、日本語学習経験のない者も含め、様々なレベルの学習者が動画を見ることを想定し、それぞれの映像の再生時に、字幕表示を選択できるようにした。字幕は日本語漢字かな交じり、日本語総かな表記、日本語ローマ字表記、外国語 [1]、の４種類である。字幕表示はチェックマークを付け外しすることによって、自由に選択できる（図 1)。

＜図 1＞
動画の再生

なお、この機能は、スキットの動画だけではなく、「大切な表現」の文型解説や、「見てみよう」「やってみよう」の文化紹介コーナーの映像を含む、全ての動画において実現されている。DVD 版では字幕はスキットに表示されるのみであり、文型解説や文化紹介は、クラスを指導する教師が媒介語を用いて説明を補足することを想定していた。これに対し、WEB 版では、様々なレベルの学習者が、教師の助けなしに学習を進めることができるようになっている。

2.2.2　「スクリプト」

それぞれのスキットには、その台本を文字で示したスクリプトが用意されているが、サイトでは、この文字列にカーソルを合わせることによって、それぞれの語の読み方や意味、アクセント、用法上の注意点、文型説明などがバルーン形式で表示されるようになっている（図 2）



＜図 2＞
スクリプト

「エリン」のスキットで用いた日本語は、できるだオーセンティックな表現を採用しているため、初級では扱わないような語彙や、様々な縮約形、口語表現等も含んでいる。そのためこの教材では、学習者は必ずしも全ての語を理解する必要はないというコンセプトであった。しかし、独習を前提とした WEB 版では、教師や他の教材に頼らなくても学習者が自分で内容を理解することができるようにすることが必要であると考え、語ごとの解説を用意した。またバルーンによるオンライン解説が自動的に出ることは、WEB の特徴を生かした機能であると言える。

2.2.3　「マンガ」

＜図 3＞
マンガ

「基本スキット」では、スキットの内容がマンガでも描かれている。このマンガにおいても、セリフの表記を自由に選択できるようになっている（図 3)。またマンガのセリフの吹き出しをクリックすることによって、そのセリフを音声で聞くことができる。

マンガのセクションには、オノマトペを解説した「マンガで覚えるオノマトペ」のコンテンツがある。これは WEB 版のために作成されたオリジナルコンテンツであり、オノマトペが使われる場面を動画で見ることができるようになっている。

2.3　「大切な表現」

「大切な表現」のコーナーは、それぞれの課の目標となる Can-do を達成するために必要となる文型や表現を取り上げ、解説したコーナーである。

このコーナーの「解説＆例文」セクションにおける例文では、音声が再生できるようになっている。例文を目で見るだけでなく、クリックして音声を聞くことができる機能は、テキスト、音声、映像という様々な形式の媒体を自由に扱うことができる WEB ならではの利点である。

またこのコーナーの「練習問題」は、Flash のプログラムにより自動的に即座にフィードバックがなされる仕組みである。内容は、形の練習を重視したパターンプラクティスから、コミュニケーションの場面や意味を考えながらタスクを達成するような練習まで、幅広く用意されている。音声ファイルを用いた聴解練習も豊富である（図 4）。

＜図 4＞
練習問題

2.4　「ことばをふやそう」

「練習問題」と同様の、プログラムによる自動採点、および音声の再生は、「ことばをふやそう」のコーナーにも実装されている。このコーナーは、各課のトピックに関連した語彙をジャンルごとにリストアップしたものであり、DVD 冊子では、イラスト＋単語という形で示されていた。

WEB 版においては、単語にカーソルを合わせると、外国語訳のバルーンが表示され、クリックすると音声が再生される仕様になっている。「練習問題」のモードでは、イラストと語彙のマッチング練習になっており、正解、不正解が即座にフィードバックされる仕組みである（図 5）。

＜図 5＞
ことばを
ふやそう

3　日本文化理解が主な目的のコンテンツ

3.1　「これは何？」

日本の珍しい物や、ちょっと変わった物などをクイズ形式で出題するコーナーの「これは何？」では、WEB 版においては 4 択クイズとなった。写真を見て解答を選び、正解であれば、動画が自動的に再生される仕組みになっている。

3.2　「見てみよう」

＜図 6＞
写真解説

「見てみよう」は、日本の様々なジャンルの文化について、映像で紹介するコーナーである。サイトでは、映像に加え、映像から切り出した各場面の写真ごとに詳細な解説を加えた「写真解説」のセクションを設けた。映像を見た学習者が、場面についてのより詳しい情報を自分で得られるようにという配慮である。またこのセクションにある写真には、カーソルを合わせると、その名称がバルーンで表示される機能もあり、映像中で気になった物の名前を、即座に日本語で確認することが可能である（図 6)。

「見てみよう」の WEB 版独自のコンテンツとして、「日本文化クイズ」がある。各課のテーマと緩やかに関連した、25 のジャンル（表 1）のクイズであり、質問は 4 択式で、20 問連続正解すると「黒帯」が、30 問連続例解すると「師範」の称号がもらえるようになっている。ウェブサイトを使って、ゲーム感覚で楽しみながら日本文化の知識が得られることを目的としている（図 7)。

＜表 1＞「日本文化クイズ」ジャンル一覧

1.日本の生活	6.日本の交通	11.温泉	16.日本人と健康	21.アニメ＆マンガ
2.日本の学校	7.日本の音楽	12.スポーツ	17.日本語	22.日本の災害
3.日本の家	8.日本の食べ物	13.日本の地理	18.日本の道具	23.日本の娯楽
4.日本のお店	9.伝統芸能・芸術	14.テクノロジー	19.日本人と仕事	24.日本の年中行事
5.日本文学	10.東京	15.日本の祭り	20.日本の歴史	25.冠婚葬祭

＜図 7＞
日本文化
クイズ

3.3　「やってみよう」

「やってみよう」も「見てみよう」と同様の、日本文化を映像で紹介するコーナーであるが、「やってみよう」では外国人が日本の様々な文化に実際にチャレンジする様子を紹介している。

このコーナーの WEB 版独自のコンテンツは、これらの日本文化が WEB 上でバーチャルに体験できることを目的とした、ゲームのセクションである。ゲームは Flash を利用して作成されており、それぞれの課と関連した内容のゲームが 25 種類用意されている（表 2）。

内容としては、「生け花（図 8）」「書道」「そろばん」「プリントスタジオ」「携帯メール」「クレーンゲーム」など、WEB 上での疑似体験を主な目的としたものと、「笹舟危機一髪」「おにぎり探し」「リズム de 応援団」「和菓子パニック」など、テーマと関連しつつも、娯楽的な要素のより強いものがある。ただし、後者の場合も、ただ単にゲームで遊ぶだけでなく、ゲームを通じて日本文化を体験したり、日本文化に関する知識を得たりできるように配慮してある。

＜表 2＞「やってみようゲーム」内容一覧

1.名刺を作ろう	6.笹舟危機一髪	11.ゆかたを着よう	16.折り紙教室	21.クレーンゲーム
2.お弁当を作ろう	7.あっちむいてホイ	12.リズム de 応援団	17.そろばん	22.火の用心ゲーム
3.巻き寿司の具当て	8.ざるそばゲーム	13.江ノ電すごろく	18.ベーゴマファイト	23.プリントスタジオ
4.おにぎり探し	9.バーチャル生け花	14.携帯メール	19.ふろしきゲーム	24.茶碗合わせ
5.バーチャル書道	10.ネイルアート	15.線香花火ゲーム	20.和菓子パニック	25.賞状づくり

＜図 8＞ ゲーム

4　登録ユーザーのためのコンテンツ

当サイトのほとんどのコンテンツは、誰もが無料で見られるようになっている。しかし、学習者が継続的にサイトを訪問し、サイトにおける学習を継続することを

促すために、ユーザー登録の制度も設けている。ユーザー登録すると、「学習の記録」「文化クイズ段位一覧」「アバター」「にほんごクエスト」といった機能が使えるようになる。

「学習の記録」は、サイトのコンテンツのうち、どこの部分を見たか、どこの部分をまだ見ていないかが、一覧表形式で表示される機能である。「文化クイズ段位一覧」は、「見てみよう」の日本文化クイズで「黒帯」「師範」を取ったジャンルが記録される。

「アバター」は、登録ユーザーが自分の顔や髪型、服を自由に選択でき、ログイン後のトップページに表示される他、JPG 形式でダウンロードできるようになっている。そして、この自分のアバターを操作しながら、仮想の街で会話をすることができるロールプレイングゲームが、「にほんごクエスト」である（図 9）。

「にほんごクエスト」では、自分が作成したアバターを使ってゲーム上のキャラクターと会話をすることができる。このとき選択できる会話は、最初は 1 種類しか選択できないが、課の学習を進めるにしたがって、その課の Can-do を使って話しかけることができるようになる。同じキャラクターでも違った Can-do を利用して話しかければ、違った反応が得られるようになっており、その結果として、特別なイベントが発生したり、特別なアイテムが入手できたりする。全ての Can-do を達成し、キャラクターからもらった「秘密の呪文」をそろえれば、ゴールに行くことができるような仕組みになっている。

＜図 9＞
にほんご
クエスト

以上、サイトの内容を紹介しながら、WEB 版開発において追加された具体的な機能について述べてきた。大会発表時は実際にサイトを見ながら説明することができたが、本稿のような紙面だけではなかなかイメージがわかないと思われるので、実際のサイトにもアクセスしていただければ幸いである。またサイトの基本的な機能は「紹介ムービー」が YouTube にアップされているので、こちらも参照されたい。

注.
[1]外国語は現在、英語のみであるが、2010 年度末までに、韓国語、中国語、スペイン語、ポルトガル語が追加される予定である。

＜参考文献＞

三原龍志（2008）「ことばと文化を組み合わせた教室活動－DVD 教材「エリンが挑戦！にほんごできます。」を使って」、『ヨーロッパ日本語教育』第 13 号、252-259、ヨーロッパ日本語教師会

築島史恵、久保田美子、磯村一弘（2007）『DVD で学ぶ日本語　エリンが挑戦！にほんごできます。』Vol.1～3、凡人社

＜ウェブサイト＞

WEB 版「エリンが挑戦！にほんごできます。」http://erin.ne.jp/（2010 年 12 月 20 日参照）

WEB 版「エリンが挑戦！にほんごできます。」紹介ムービー http://www.youtube.com/watch?v=TR1YBbbKa5Y（2010 年 12 月 20 日参照）